

感染症罹患後の保護者の登園届

| | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 登園届（保護者記入） | |
| 特定非営利活動法人 北陽保育園施設長殿 | |
| 入所児童名 _____ | |
| 年 月 日 医療機関名「 _____ 」において | 病名「 _____ 」と診断され、 |
| 病状が回復し、集団生活に支障がない状態と判断されましたので登園いたします。 | |
| 保護者名 _____ | 印又はサイン _____ |

登園の際には、上記の登園届の提出をお願いいたします。（なお、登園のめやすは、子供の全身状態が良好であることが基準となります。）

保育所は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、子どもたちが一日快適に生活できることが大切です。

保育所入所児がよくかかる下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断にしたがい、登園届の提出をお願いいたします。尚、保育所での集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

○医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

（札幌市乳幼児園に協議会編「子どもと伝染病」参照）

| 感染証明 | 潜伏期 | 感染しやすい時期 | 登園のめやす |
|------------------------------|------|---|-----------------------------------|
| 溶連菌感染症 | 2～7日 | 適切や抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間 | 主要症状が消失し、抗菌薬内服後1～2日後経過していること |
| マイコプラズマ肺炎 | 1～3週 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間 | 発熱や激しい咳などの主要症状が治まっていること |
| ウイルス性胃腸炎 （ノロ、ロタ、アデノウイルス等） | 1～3日 | 症状ある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要） | 全身状態が良く、嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること |
| ヘルパンギーナ | 2～5日 | 急性期の数日間（弁の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要） | 解熱し、口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること |
| RSウイルス感染症 | 4～6日 | 呼吸器症状のある間 | 咳などの呼吸器症状が改善し、全身状態が良いこと |
| 帯状疱疹 | | 水疱を形成している間 | すべての発疹がかさぶたになってから |
| 突発性発疹 | | | 解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと（発疹があっても良い） |

（手足口病、伝染性紅斑（りんご病）は、発疹があっても、全身状態がよければ、登園可としています。）

特定非営利活動法人 北陽保育園

感染症罹患後の登園許可についての医師の意見書

意見書

特定非営利活動法人北陽保育園施設長殿

入所児童名 _____

病名「 _____ 」

年 月 日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。

年 月 日

医療機関 _____

医師名 _____

印又はサイン _____

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、子どもたちが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。

感染力のある帰還に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育所生活が可能となる状態となつてからの登園であるようご配慮ください。

○医師が記入した意見書が必要な感染症（札幌市乳幼児園医協議会編「子どもと伝染病」参照）

| 感染症名 | 潜伏期 | 感染しやすい時期 | 登園のめやす |
|-----------------------------|-------|-----------------------------------|--|
| 麻疹（はしか） | 9～12日 | 発症1日前から発しん出現後の4日後まで | 解熱後3日を経過してから、全身状態が良ければ通園可 |
| インフルエンザ | 1～3日 | 症状がある期間（発症後24時間から3日程度までが最も感染力が強い） | 症状が始まった日から5日以内に症状がなくなった場合は、症状が始まった日から7日目まで又は下熱した後、3日経過するまで |
| 風しん | 2～3週 | 発しん出現1～2日前からかさぶた形成まで | すべての発しんがかさぶたになってから（手のひら、足の裏を除く） |
| 水痘（水ぼうそう） | 2～3週 | 発しん出現の前7日から後7日間くらい | 発しんが消失してから |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 2～3週 | 発生3日前から耳下腺腫脹後4日 | 耳下腺の主張が消失してから |
| 結核 | | | 感染の恐れがなくなってから |
| 咽頭結膜熱（プール熱）（アデノウイルス） | 4～7日 | 発熱、充血等症状が出現した数日間 | 主な症状が消えた後、2日経過してから |
| 流行性角結膜炎（アデノウイルス） | 4～7日 | 充血、目やに等症状が出現した数日間 | 感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから |
| 百日咳 | 1～2週 | 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで | 特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の支持に従う） |
| 腸管出血性大腸菌感染症（O157,O26,O111等） | 3～8日 | | 症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認され、伝染の恐れがないと認めてから |

特定非営利活動法人 北陽保育園